

スペイン. 文学の旅

訳例と解答例

23. サール川の岸辺で(1), p.55

耳慣れぬざわめきの聞こえる
鬱蒼(うっそう)とした木の葉の間に,
そして小鳥たちの優しい住みかの
波打つ緑の海の間には,
私の部屋の窓から
大好きだった寺院が見える.

大好きだった寺院…
今でも好きなのか, 私はわからない.
私の気持ちは安物の振り子のように
絶え間なく揺れる.
私の胸の中に, 冷酷な恨みが
愛といっしょに住んでいるのだろうか.

* L1. a través de...と entre...は並列の関係になりますか?

→その通りです.

* L1. perenne「鬱蒼とした」は意識ですか?

→「多年草の, 枯れない, 常緑の」という質的な意味です。「鬱蒼とした」という量的な意味はむしろ follaje という集合名詞に対応します.

* L2 の deja の用法がわかりません.

→普通の語順に直せば, deja oír rumores extraños という文になります. dejar は「…させる」という「放任」の意味で, 直訳すると「耳慣れぬざわめきを聞かせる(聞かせてくれる)」となります.

* L4. amorosa mansión de los pájaros は直前の un mar de ondulante verdura と同格で説明しています.

* L7. quiese tanto という語順も可能. 副詞の位置は比較的自由. 動詞の近くに置かれる.

* L9. que en el rudo vaivén que... の 2 つの que の意味がわかりません.
→最初の que は「…というのは」という意味で理由を示し, 次の que は en el rudo vaivén を先行詞にする関係代名詞です.

* L9. en el rudo vaivén 「安物の振り子のように」
→vaivén という動作をするのは典型的には振り子なので, そのように訳しましたが, 訳し過ぎかもしれません. 「ひどく揺れて」というのが直訳です.

●EJERCICIO, p.56

- (1) 明日, それを買うかどうか君に言おう.
- (2) 君が来るかどうかということを私たちは話していた.